

## 変わらないために、変わる

2024・5・22 重枝 一郎

私は、よく、変えてはいけないものは、「スピリット」であり、変えなくてはならないものは、「やり方」という話をする。

教師は、変化が苦手ということと言われる。確かにそういった実感は私にもある。これまでの教え方やこれまでの校則、また、学校の伝統のようなもの・・・変える時には、一つの考えにまとまることはない。変化に対する嫌悪感をもつ人も多い。

**今年度、音楽科を変えていくことを決めた。**その際、私は、「音楽科卒業生会」にも意見を聞きに行った。私は、行く前は、なんとなく「変えたら私たちの音楽科ではなくなる」というようなことを言われるのではないかと思っていた。ところが、昨年も参加して、いろいろお話ししている関係性もあったのか、ネガティブな空気にはならなかった。自分たちの同級生にもいろいろな人がいるという話で盛り上がった。

世の中の的にも、変えたくないものを、変えないようにするとき、実は変わり続けていることに気付く。「変えたくないものを守るためには、変わらなくてはならない」と言う、なにか言葉遊びのように聞こえるかもしれないが、変化を恐れては、おそらく守れない。つまり、成長と進化により「変わり続ける」ことこそ、その存在価値が「変わらない」ことを支える。

「世の中が変わると、教育が変わる」。これは普通科教育では当たり前の話である。ところが、本校は、宗教教育や音楽科教育があり、この二つはクラシカルであり、過去に向かっていく感じがある。それも当たり前である。しかし、根強い一つの価値観に支配されると、これからの社会を幸せに生きていくことはできないと思う。多くの人が、ある考えを信じている社会がある場合、それが、全体を覆っている感じになる。終身雇用や学歴神話などがそうであった。

生物学者は、「私たちの身体を構成している分子は、すごい速さで分解され、食物として取り入れた分子と置きかえられている」と言う。つまり身体は常に作り変えられることで、維持されている。私たちの身体は、絶え間ない変化によって支えられているという。

ところが、人の生き方となると状況は一変する。多くの場合、何も変えず、変わろうとしなくても、現在が維持できると信じている。根拠のない思い込みのバイアスにとらわれる。ただ、おそらく、今の状態を、未来にそのままキープしておくことができるのは誰も思っていないだろう。時間は常に流れる。「今」は次の瞬間「過去」になる。

「未来」が次の瞬間「今」になる。つまり、現状維持は、「過去」を維持しようとする行為になる。

発明王のエジソンの言葉に、「私は失敗したことがありません。ただ、一万通りのうまくいかない方法を発見しただけなのです」という言葉がある。一見負けず嫌いの屁理屈のように聞こえるが、変化を楽しむ人のマインドを表した言葉だと思う。

成功か失敗か、白か黒かと二つに分けるものの見方なら、失敗は失敗ということになる。でも、少しでも前に進もうと、時間軸を未来に延ばして失敗を見直せば、一つの失敗は前進するための過程に過ぎない。

知っての通り、今の時代の特徴を一言にまとめて「ブーカ（VUCA）」の時代と言う。どう変化するかわからない変動性、確かなものがない不確実性、複雑に入り込んでいる複雑性、先行きの見通せない曖昧性の英単語の頭文字をとって「ブーカ」と言う。こうした時代には、それぞれの人が、自分の性格、能力、置かれた環境で自ら考えて、自分なりの正解を出さなくてはならない。